

バリアフリーニュース（第15号）

2022年度報告

小学生や交通事業者を対象に バリアフリー教室を実施しました

国土交通省東北運輸局では、高齢者や障害のある方の社会参加を後押ししながら、皆さんが行動しやすい環境づくりを目指した取組を行っております。

その取組の1つである、「心のバリアフリー」（お互いに理解し合い、支え合う気持ち）の育成・促進を目的としたバリアフリー教室を毎年開催しております。以下、今年度実施しましたバリアフリー教室の様子をご紹介します。

実施日：令和4年6月22日（水）、7月4日（月）

実施場所：仙台市立住吉台小学校

参加者：小学校4年生

協力：仙台バリアフリーツアーセンター、根白石地域包括支援センター

項目：高齢者疑似体験・介助体験、講話

重りを入れたベストや視界が悪くなるゴーグルを着用して、階段の昇降などを行い高齢者の感覚を体験していただきました。

体験した児童からは、「思ったより体が重く感じ、高齢者の大変さが分かった」などの感想をいただきました。7月4日（月）には、バリアフリープロモーターの岩城様を講師にお招きしバリアフリーについての講話を実施しました。車椅子での生活(困り事)や誰に対しても「思いやり」の気持ちを持ち行動することの大切さなどについてご講話いただきました。



実施日：令和4年9月8日（木）

実施場所：楽天生命パーク宮城

参加者：仙台市立原町小学校 4年生

協力：株式会社楽天野球団、仙台市社会福祉協議会、仙台バリアフリースポーツセンター

項目：車椅子体験、講話、ポッチャ体験

東北運輸局では、平成24年度から楽天生命パーク宮城でバリアフリー教室を開催しており、今年度はコロナ禍の中断を挟み3年ぶりに9回目の開催となりました。今回は、車椅子体験・講話・ポッチャ体験の3つを実施しました。車椅子に乗り球場内を自走とその介助、「心のバリアフリー」についての講話など、バリアフリーに関する意識を高めていただきました。ポッチャ体験では、体験を通してバリアフリーなものが身近に存在することを感じていただきました。何が障壁(バリア)になっていてどう改善していく必要があるのか、スポーツだけでなく様々な観点で考えていただくきっかけを作ることができました。当日は雨が降っていましたが、原町小学校の皆さんからは積極的に取り組んでいる様子が見受けられました。

体験した児童の皆さんからは、「車椅子に乗ってみて、危ない場所や大変さが分かった」、「講話を聞いて、これからは困っている人を見かけたら積極的に声をかけたいと思った」などの感想をいただきました。



実施日：令和4年7月14日（木）

実施場所：山形自動車会館／山形運輸支局

参加者：協会員運転者

協力：一般社団法人 山形県ハイヤー協会 山形県ハイヤー・タクシー協会

項目：高齢者疑似・介助体験、視覚障害者疑似・介助体験

一般社団法人 山形県ハイヤー協会様が主体となり、タクシー乗務員を対象にユニバーサルドライバー研修が実施されました。高齢者疑似体験や視覚障害者疑似体験を通して、タクシー乗務員の「接客向上」を図りました。体験した乗務員の方からは、「今後障害をお持ちの方と接する際の参考になった」や「今回学んだ知識を活かし、地域交通を通して多くの人の助けになりたい」などの感想をいただきました。また、高齢者疑似体験等は、山形運輸支局の職員も参加し、今後の業務や障害当事者への理解を深めていただきました。

その他「車椅子の取り扱い、乗降と降車」についての演習も実施し、様々な観点でバリアフリーについて学んでいただきました。



実施日：10月13日（木）

実施場所：山交バス株式会社本社営業所／山形市立第四小学校

参加者：小学校5年生

協力：山交バス株式会社、山形市社会福祉協議会

項目：講話、車椅子乗降体験、高齢者疑似・介助体験

山交バス株式会社様、山形市社会福祉協議会様にご協力いただき、小学校5年生を対象にバリアフリー教室を開催しました。様々な体験を通じて小学生に多様な人のことを思いやる「心のバリアフリー」の育成を図る目的で開催され、実際に車椅子に乗りスロープが設置されたバスに乗車したり、体を不自由にする道具（重りやゴーグル）を装着し高齢者疑似・介助体験を実施したりなど、初めての経験に真剣に取り組む姿が見受けられました。

体験した児童からは、「車椅子でバスに乗るときは大変なことが分かった」や「道具をつけてみて、高齢者は自由に動くことが難しいことが分かったので、これからは積極的に助けていきたい」などの感想が寄せられました。今回の教室では、山形運輸支局の職員も手伝いとして参加し、多くの皆様にバリアフリーについて学んでいただけました。また、疑似体験などの他に山形市が実施しているバス乗車の際に使用するICカード(チェリカ)を使用しての実車体験も行われました。



実施日：令和5年2月13日（月）

実施場所：仙台第四合同庁舎 2階専用会議室

参加者：東北運輸局職員

協力：特定非営利活動法人 仙台バリアフリーツアーセンター

項目：講話、グループディスカッション

仙台バリアフリーツアーセンターの皆様にご協力いただき、当局の若手職員に対して『合理的配慮と心のバリアフリー』をテーマに、講話とグループディスカッションを行っていただきました。昨年度は新型コロナウイルス感染拡大の影響により、講師の皆様はオンライン形式での開催となりましたが、今年度は講師の皆様に来局していただき、対面とオンライン併用で開催することができました。

参加した職員からは、「障害当事者の方からお話を聞き、普段は気づかない障壁が多くあることに気がついた」や「障害を抱えている方との接し方やどのようなことに気を付けて対応すればいいかなど勉強になった」などの感想が寄せられました。グループディスカッションでは、各班ごとに講師と自由に討議することをテーマに実施しました。普段の生活や講話の内容の深掘りなど、幅広く討議している様子が見受けられました。普段聴くことのできない障害当事者のお話から様々なことを学び、今後の業務に活かしていただければと思っております。



出前講座の依頼を受け、“東日本国際大学附属昌平中学校”で バリアフリーについての講話、高齢者疑似・介助体験を実施しました

実施日：7月14日(木)、10月27日(木)

実施場所：オンライン、東日本国際大学附属昌平中学校

参加者：中学校1年生

項目：講話、高齢者疑似・介助体験

令和4年6月、福島県いわき市「東日本国際大学附属昌平中学校」様よりキャリア学習の一環としてバリアフリーについての講話をお願いしたいと出前講座の依頼があり、令和4年7月にオンラインでバリアフリーについての講話を実施しました。出前講座の依頼を受けてオンライン方式でのバリアフリー教室を実施したのは東北運輸局にとって初となります。また、オンラインでの開催も数少なく、バリアフリー推進課にとって大変貴重な機会となりました。講話の内容に「心のバリアフリー」についても含まれており、国土交通省のホームページに掲載されているハンドブックを活用しました。<https://www.mlit.go.jp/common/001250069.pdf>

講話を聞いた生徒からは、「身近に存在するバリアフリーについてわかりやすく教えていただき、勉強になった」や「講話を聞いて、障害を持った方やバリアフリーについて考えるきっかけになった。講話で聞いたことを参考に、困っている人を見かけたら手助けしていきたい」などの感想が寄せられました。講話だけではなく、令和4年10月には東北運輸局職員が「東日本国際大学附属昌平中学校」に伺い、高齢者疑似・介助体験を実施しました。講話を聞いたクラスの担任の先生から、「実体験を通して、高齢者についてはもちろんバリアフリーへの理解をより深めてほしい」との声で開催した今回の疑似体験は、生徒の皆さんそれぞれ初めての体験に戸惑いながらも、高齢者の大変さを感じながら体験していただきました。

体験した生徒からは、「高齢者体験を通して、高齢者、バリアフリーについて学びきっかけになった」や「貴重な体験ができてよかった、これを機にいろいろな観点でバリアフリーを学びたい」などの感想をいただき、有意義な時間を過ごしていただきました。



令和4年8月19日 第4回移動等円滑化評価会議東北分科会を開催しました

本分科会は、平成30年5月に改正されたバリアフリー法に基づき、国土交通省に設置された移動等円滑化評価会議の下に設置されており、障害のある方々の参画を得て、各種団体などとともに東北地域におけるバリアフリー化の進展状況の把握・評価を行うものです。第4回となる今年度は、昨年度に引き続き対面形式とオンライン形式の併用開催となりました。会議では、バリアフリー法に基づく国の基本方針に定める整備目標の達成状況報告や今後の東北地方におけるバリアフリー化の課題等について意見交換を行いました。

また、これまでの分科会で開催のご要望をいただいていた各県・ブロックごとの意見交換会について、令和4年7月に宮城県、12月に青森県・岩手県・秋田県の委員の皆様を対象に実施しました。各県・ブロックごとに開催することにより、より多くのご意見をいただくことができました。

東北運輸局としましては、委員の皆様から貴重なご意見をいただきながら、バリアフリー整備の促進に取り組んで参りますので、ご協力よろしくお願いたします。

【日時】 令和4年8月19日（金） 13：30～15：00

【場所】 TKP ガーデンシティ仙台 ホール21A
（仙台市青葉区中央1-3-1 アエル21階）

【出席者】 有識者、高齢・障害者団体、
施設設置管理者・関係協会、関係行政機関など

【内容】 バリアフリー化の進展状況の把握・評価についてなど



↓会議の詳細はこちらからお願いします。

第4回 移動等円滑化評価会議 東北分科会（東北運輸局ホームページ）

https://www.tb.mlit.go.jp/tohoku/O0001_00186.html

仙台市地下鉄東西線のバリアフリー施設を見学しました

令和4年4月、担当職員の見識を深めるため仙台市交通局様のご協力により、バリアフリー施設を見学する「仙台市地下鉄東西線 施設見学会」が実施されました。仙台市交通局様は、平成29年に国土交通省より「バリアフリー化推進功労者」を表彰しており、様々なバリアフリー施設が存在しています。

車椅子利用者やベビーカー利用者など、全ての方が利用できるよう幅が広く統一されている自動改札や、右まひ・左まひそれぞれの障害に対応するため左右対称に設置されたバリアフリーストイレを見学しました。その他、車椅子利用者からの駅係員の介助無しに車両に乗降したいという意見に答えるため、東西線のプラットホームと車両床の高さの差を1cm程度とし、ホーム縁端に合成樹脂製の隙間調整材を設置することにより段差は2cm、隙間は3cm程度に抑えていることも分かりました。普段何気なく利用している交通機関でも、見方を変えればバリアフリーの要素が多く存在していると感じました。

今回、改めて施設を見学する機会をいただき、事業者側のバリアフリー化の取組を実感することができ、バリアフリー推進課にとって有意義な時間となりました。施設のバリアフリー化のみならず、様々な観点で皆様に協力ができるよう取り組んでいきたいと思っております。



自動改札口



バリアフリーストイレ

このニュースは、バリアフリー関係の話題を中心にお届けしています。
お問い合わせがございましたら、下記までご連絡をお願いいたします。



東北運輸局マスコット「とうくろっ犬」

東北運輸局 交通政策部 バリアフリー推進課
〒983-8537 仙台市宮城野区鉄砲町1番地
仙台第四合同庁舎 3階
TEL 022-791-7513